

**Q 2 2 不登校の前兆となる心のサインはどのようなものですか。
また、その対応はどのようにすればよいのですか。**

「不登校は、とりわけ初期の対応が大切である」という認識をもつことが必要です。児童生徒たちが無意識に発している心のサインを見逃さない感性を磨くとともに、教職員としてできる早期の対応について整理します。

1 サインを感じた時の基本的なスタンス

- (1)「今までのあの子とは違ってな、変だな。」と感じた時、タイミングを逃さず、かわりや声がけを多くするなどの配慮は欠かせない。
- (2)児童生徒の変化の裏にあるものを感じ取り、教育相談的にかかわる。
- (3)教育相談週間でのアンケートや相談時のサインに気付き、話を聞く。
- (4)気になる児童生徒の家庭からの「頭痛」「腹痛」等の病気連絡に対し、詳しく状況を聞いたり、家庭訪問したりする。

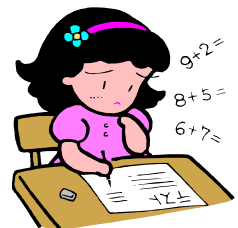
2 早期の対応(素早いアクション)

- (1)できるだけ早い段階で、教育相談委員会などで対応策を協議し、複数の教職員で様々な場を通して本人の状況をより詳しく観察し、情報交流する。
- (2)担任は本人へのかかわりを深めながら、本人の不安や苦しみなどの心の葛藤に寄り添う形で理解するよう努める。
- (3)学級の様子を再点検する。
学級の児童生徒から、最近の学級の様子を聞き取る。
 - ・いじめ、学級や先輩とのかかわりで最近トラブルはなかったか。
 - ・体罰、セクハラ、教職員からひどく叱られたことはなかったか。教科担任から、授業における学級の様子について情報収集する。
養護教諭から、保健室への来室状況について情報収集する。
スクールカウンセラー、事務職員、校務員等多くの教職員から情報収集する。
部活動の顧問、スポーツ少年団関係者等から活動状況を情報収集する。
- (4)家庭訪問を実施し、家庭や学校等での様子について保護者と情報交換する。
 - ・家庭で気がかりなこと、心配なことはないか。
- (5)本人に対する教育相談を実施する。
 - ・ありのままを受け入れ、心情を理解する。
 - ・聞き出すのではなく、担任(教職員)としての気がかりな気持ちを伝える。

[留意点]

担任に限らず、本人との信頼関係がとれる教職員(セクハラ等の場合は同性の教職員)が当たることも念頭に置く。

スクールカウンセラーの配置校であれば、スクールカウンセラーのカウンセリングも考慮に入れる。



3 具体的なサイン

チェックリスト（教職員がチェックした場合、5個以上の項目に該当すれば心配である。）

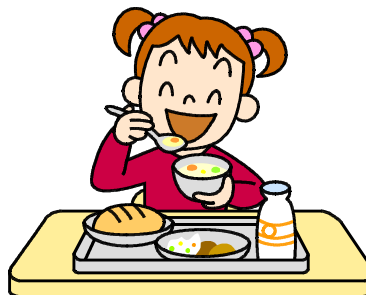
< 学校での変化 >

1 身体的な変化

体の不調を訴え、保健室に行くことが多くなった。
遅刻や早退が多くなった。

2 学校生活での変化

授業に集中しなくなった。
忘れ物が多くなった。
宿題をしなくなり、成績が下がった。
活気がなくなり、無気力になった。
認められないと不機嫌になった。
友人と遊ばなくなった。
身体症状を訴えるなどし、保健室や職員室に回数が増えてきた。
理由をつけて部活動を休みがちになった。



3 欠席の様子

休日の次の日などの欠席が多くなった。
特定教科のある日の欠席が多くなった。
連続的に欠席をすることが多くなった。

< 家庭での変化 >

1 朝の様子

起きるのが遅く、登校時刻になると動作が鈍くなり遅刻や欠席が多くなった。
登校時刻になると、よくトイレに行くようになった。
なかなか起きなくて、親が無理に起こそうとすると反抗的・攻撃的になった。
自分で服を早く着ようとしめない等、仕度に時間がかかることが多くなった。
頭痛や腹痛（下痢や吐き気）が多くなり、欠席することも多くなった。
月曜日や休み明け、特定の曜日に登校を渋ったり、欠席したりした。
友人にいじめられるから行きたくない等、言い訳をすることが多くなった。

2 家庭生活での変化

欠席の日は登校時刻が過ぎるとだんだん元気になることが多くなった。
母親に対して甘えが強くなり出たり、逆に反抗的、攻撃的な態度をとったりする。
学校や勉強のことを言うと、ひどく不機嫌になる。
偏食が多くなった。
家であまり口をきかなくなった。
家の中だけで遊ぶことが多くなった。
他人を必要以上に気にするようになった。
好きなこともあまりしなくなるほど何事もやる気がなく、無気力になった。

4 サインへの対応

< 本人に対する支援 >

- 1 本人とのかかわりを密にする。
 - ・機会をみてできるだけ声をかける。
(あいさつ、体調への気遣い等)
 - ・養護教諭や相談員等と連携し、本人の関心のある話題等を通してつながりがもつことができる職員をつくる。
 - ・本人の価値ある姿を積極的に認める。
 - ・本人と一緒に運動をしたり、仕事をしたりする。
- 2 本人の思いをじっくりと聞く。
 - ・友人のこと、学習のこと、児童会・生徒会活動のこと、部活動のこと、家庭生活のこと等、幅広く聞く。
- 3 悩みや苦しみを共感的にとらえ、本人との信頼関係を築き、安心感をもたせる。
 - ・話の内容をありのままに受け入れる。
 - ・悩みや苦しみを理解し、ともに解決に向けて歩もうとする姿勢を示す。
- 4 自己を見つめさせ、目標をもって生きる勇気をもたせる。
 - ・自分自身を振り返り、自分のかけがえのなさやよさを見つめさせる。
 - ・自分を見守り支えている家族や友人の姿(願い)を想起させる。
 - ・これからの目標を決め、それに向かう姿を認め、励ます。

< 家族に対する支援 >

(家族に直接会って行く。 - 家庭訪問等。)

- 1 本人や家族の悩みや苦しみを共に受け止める姿勢を示す。
 - ・家庭での様子や家族の思いや願いをじっくりと聞き、共感する。
 - ・本人や家族のために学校でできることや改善していきたいことを示す。
- 2 家庭で具体的に実践できることについて相談する。

例：本人と家族との会話が増えるような工夫をする。(いっしょに遊んだり、作業をしたり、食事をしたりする。)

 - ：家庭の生活リズムを整える。(早寝早起き、朝食をとることに心がける等。)
 - ：本人と相談し目標や約束を決め、努力させる。
 - ：本人のよさを見つけ、認める。
 - ：本人が負担に感じるような言葉や細かいことをしつこく言わない。
- 3 状況が改善する見通しをもたせ、家族の心の安定を図る。
 - ・継続的に学校での本人の様子や学校の取組を伝えていくことを約束する。
 - ・短期の目標と長期の目標を相談して決めこれからの連携の仕方を示す。
 - ・本人(家族)の状況に応じて、教育支援センターや専門機関を紹介する。

< 学級集団に対する指導・援助 >

- 1 仲間との温かいかかわりが生まれるようにする。
 - ・児童生徒が一体となって取り組む活動や楽しい学級遊びを位置付ける。
 - ・欠席の日には、仲間の温かいメッセージやプリント等を届ける。
 - ・親しい友人が主体的に迎えに行き、いっしょに登校できるように働きかける。
- 2 仲間の悩みや苦しみを同じ学級(学校)の仲間として受け止め、自分ができることを考える場をもつ。
 - ・自分にできること 例：朝、出会ったときに、気持ちよくあいさつをする。
：遅れたり、休んだりしたことを非難しない。
：授業の中で教え合ったり、励まし合ったりする。 等